



- 1.水耕野菜や黒ニンニクなど、見慣れない食材も販売されます
- 2.手作り雑貨が並ぶ店舗。商品を見ているうちに、出店者との距離が縮まります
- 3.市だけでなく、エイサーなどのパフォーマンスも楽しめます
- 4.将棋の子ども体験教室。専門指導員が優しく指導してくれます
- 5.じっくりと囲碁を楽しむ場もあります。囲碁を通じて、友人ができるかもしれません

information

荒子円空市

9月2日[日] 9時～13時
※小雨決行・雨天中止

- 場所 / 荒子観音寺境内(中川区荒子町宮窓138)
- 主催 / 荒子の里協議会
- 出店者用問い合わせ / 090-2266-6775(担当:竹中)
- ウェブサイト / <http://enkuichi.com/>

荒子は昔からの近所づきあいの魅力の地域。円空市の開催を通じて、地域の絆を一層深めていきたいです。



(左)常時50人以上の子どもが集まるという紙芝居。兼子さんが紙芝居の語り手を務めています(右)店主が選び抜いた野菜が並ぶ店。ポップには、味の特徴が書かれています

誰もが気軽に出店し
老若男女楽しめる市に

したが、来場者の増加に伴い、1年後の平成28年11月に現在の開催日に変更しました。

荒子円空市は1月、2月を除いて、年10回開催(8月はランタンフェスティバルの夜市として開催)。毎回30店以上が出店しています。

当日はアクセサリーや布小物、木工品などの手作り雑貨が並びます。育てた苗木を手作りの鉢に植え替えて販売する人もいます。ほかに、採れたて野菜や弁当、自家製パンなど食品も充実。「野菜1点からでも気軽に出品してもらえればうれしい」と代表の奥村和子さんは話します。「出店

者の参加は減少傾向ですが、一方で、手作り作品を持ち寄る、半畳ブースの個人出店が増えています。地域の人たちが作品を披露したり、交流したりできる「寄り合いの場にした」と。

7月からは囲碁と将棋の子ども体験教室など、子どもが楽しめる企画に力を注いでいます。運営スタッフの兼子勉さんが自ら語り手になり、紙芝居を披露。自転車の荷台に昔懐かしい手作りの舞台を設置し、子どもの人気を集めています。「遠くからでも見える大型紙芝居もありますよ、読み手になりたいという子もいて、参加型の楽しい空間になっています。今後は荒子に伝わる昔話をもとに、オリジナルの紙芝居を作りたい」と抱負を語りました。

地域の絆が深まる場所
荒子の魅力が詰まった市に

今回の開催は9月2日。子ども向けイベントのほか、地元小学生による企画や迫力ある殺陣を披露するパフォーマンスを予定しています。

開催当日、運営スタッフは多忙を極めます。早朝の受付から始まり、駐車場整備や来場者の安全確認、終了後の掃除や砂利の整備まで、1日かかり。「毎月大変ですが、荒子が元氣になれば」と小島さん。スタッフの木澤伸行さんも「苦労があっても円空市を続けているのは、幸せに暮らしてこられたことに對する、地域への恩返しです。マルシェという形で、地域貢献ができればうれしい」

と力を込めました。

「円空市の開催を通じて、地域の絆を二層深めていきたいです」と奥村さんは話します。荒子の里協議会の願いは、観音寺門前町のにぎわいの復活と、地域コミュニティの形成、連帯感の強化。そのために、古くからの住民と転居者、老人と子どもなど、年齢や世代を超えた交流を目指しています。

「まちづくりに取り組めば、将来子どもたちが引き継いでくれる。活動が続けば、地域の絆も深まっていくと信じています」と決意を新たにしました。

地域のつながりを生かして、ますます盛り上がりを見せる荒子円空市。皆さんも足を運び、ふれあいのひとときを楽しんでみてはいかがでしょうか。



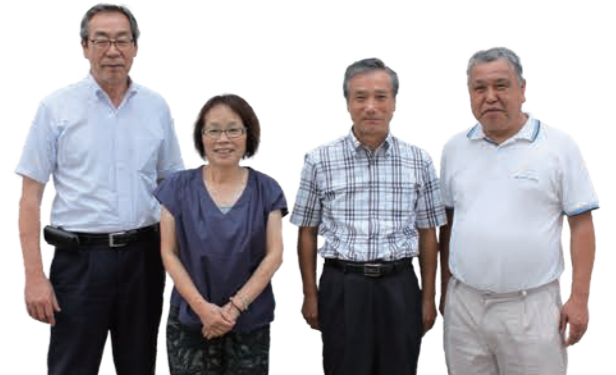
毎月第1日曜開催 巻頭特集

手作り品も集まるマルシェ“荒子円空市”

荒子から
中川区を
元気に!

採れたての野菜が机に並びます。生産者の顔を見て購入できるのも、マルシェ形式ならではの

毎月第1日曜、荒子観音寺の境内で開催されている「荒子円空市」。出店以外にもさまざまなイベントがあり、地元の人が集う場所として定着しています。主催の「荒子の里協議会」には、地域への温かな思いがありました。



写真右から、荒子の里協議会の兼子勉さん、木澤伸行さん、代表の奥村和子さん、小島祐助さん

まちづくりの一環として
かつてのにぎわいを再現したい

全国各地で人気を見せているマルシェ。野菜や手作りの小物などが並び、作り手と買い手が交流しています。中川区の荒子観音寺境内でも、毎月、荒子円空市を開催。300人ほどが訪れ、にぎわいを見せています。

生涯で12万体的木彫り仏像を彫つたと伝わる僧侶円空。現存する円空仏約5340体のうち、1250余体が荒子観音寺に残されており、市の名前の由縁になっています。

荒子円空市を運営するのは、平成24年に発足したまちづくり団体、荒子の里協議会です。30代から80代ま

で約100人の会員が、ウォーキング大会や梅見交流会、円空フォーラム、ランタンフェスティバルなどを主催し、地域住民や企業、行政と協働でまちを活性化しています。

協議会は、発足当初からマルシェに注目。県内各地を視察して回りました。「20年ほど前まで、荒子観音寺の参道は、3と8がつく日の三八市でにぎわっていました。当時の活気を取り戻したいという思いもあり、野菜や手作り品など、さまざまなものを販売できるようにしました」と、協議会の小島祐助さんは振り返ります。

第1回の開催は平成27年11月。当初は観音寺の円空仏拝観日に合わせて毎月第2土曜日に実施されていま



たくさんの人でにぎわう荒子円空市。地元の出店者と区外からの出店者が入り混じっています